

令和6年度第1回太白区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事録

- 日 時：令和6年6月1日（土）午前9時00分～午後4時00分
- 場 所：太白区役所4階第1・2会議室
- 出席委員：佐々孝委員、石内鉄平委員、鎌田隼委員、佐藤真美子委員
- 欠席委員：岩間友希委員長、菅原玲副委員長
- 事務局：利まちづくり推進部長、佐藤まちづくり推進課長、佐藤地域活動係長、
竹内地域活動係主事、保科地域活動係主事、岩城地域活動係主事

○会議内容

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議事

議事録署名委員を指名した。

(1) 令和5年度企画事業に係る事後評価等について【公開】

- ①評価方法等説明
- ②令和5年度企画事業報告

「広瀬川灯ろう流し～光と水のコンサートの夕べ～」の実績報告及び質疑応答

(発表者：広瀬川灯ろう流し実行委員会)

実績報告：

全国的に知られ仙台市民の誇りである広瀬川にまつわる歴史・文化に触れる機会を創出することを事業の目的とし、参加者が改めて広瀬川の自然を認識できることをねらいとする。3.5万人の来場があり、地元中学校や地域団体の参加、警察・消防等の協力で、住民参加の催事を事故等なく開催することができた。

今回は花火を中止し、ランタンや竹灯ろうにて開催したが、近隣商店街への来街者も多く、飲食店等への来店顧客・デリバリーの顧客層に繋がった。

①課題

スタッフの高齢化、マンパワー不足、活動資金の不足

②今後の展望

メッセージ花火の打ち上げ、有料観覧エリアの設置、参加を促す仕掛け作り（メインビジュアルの一新、コンサート内容のブランディング、灯ろう作りワークショップ等）

質疑応答：

[委員]

- ①警備や実行委員会の人数等の組織体系について伺いたい。
- ②告知について、広告宣伝費が大きいラジオ以外の告知方法は他に何かあったのか。

[報告者]

- ①河原町商店街、長町一丁目サンカトゥール商店街、両地区の町内会の方々、東北学院大、東北工業大、聖和学園高校の学生ボランティアで構成されている。警備は警察、警備会社等に依頼。ボランティアに関しては学生だけでなく、今後はおやじの会などの社会人の方にも来ていただきたい。
- ②エフエムたいはくでの放送や河北新報にチラシ織り込み（50,000部）で告知。告知のために昨年ホームページを一新したため費用が計上されている。

[委員]

①人材不足について話があったが、小学生の参加の仕方として、夏休み前に有志で灯ろうを作っていた記憶があるが今はどうなっているか。またおやじの会の参加に関してはいかがか。

[報告者]

①4年前から区内の中学生にボランティアとして灯ろう制作に参加してもらっており、昨年は20名参加。夏休みの思い出、灯ろうの意味合いなども理解してもらっているが、末端にまでは知れ渡っていない状況である。今年は白い灯ろうを用意し、ワークショップを企画して、子供たちに自分の気持ちを自由に絵に書いてもらうことを考えている。告知のため、商業施設や福寿院、駅前プラザなどでの企画を検討しているが、宗教行事という見方があり、学校から児童に配るのは難しいといった声もあるため、学校に頼った告知は難しいと考えている。また長町小おやじの会とは協力体制ができているが、南材木町小のおやじの会とのつながりはない。

「地域づくりの担い手支援事業」の実績報告及び質疑応答（発表者：太白区中央市民センター）

実績報告：

太白区内市民センターの事業から、太白区中央市民センターが活動経費及びマンパワーの支援を行っている、地域課題に取り組む人材の育成を推進するために、地域住民が参画して実施する5つの事業について報告。

- ・「中田・西部地区の未来を育むプロジェクト」事業【柳生市民センター】
- ・「“楽元の森”プロジェクト」事業【山田市民センター】
- ・「“みんなの広場”プロジェクト」事業【茂庭台市民センター】
- ・「パワフルとみざわネットワーク」事業【富沢市民センター】
- ・「みんなで守ろうホタルの里」事業【生出市民センター】

質疑応答：

[委員]

- ①いくつかある事業から5事業を選定したか。またその選定基準はどういったものか。
- ②事業の目的に、地域課題に取り組む人材の育成とあるが、成果達成度の欄には、人材の育成がどのように達成されたか記載がない。地域の課題と人材育成についてどのように発見し、人材育成を通して課題を解決するのか、考えを聞きたい。

[報告者]

- ①12館の市民センターに情報を周知し、エントリー方式で事業を募り、その事業について収支等の内容を確認し検討しながら選定した。
- ②対象5館の地域課題は異なり、事業を実施するにあたり、地域住民から公募して企画委員会を開催し、それぞれの地域課題は何か意見を出し合い、解決するための企画を考え運営している。その中で毎年新しい人材を取り込みながら人材育成を図っている。

[委員]

- ①5つの事業とも市民参画事業ということだが、運営するにあたり、団体自らが企画書の作成や会議の準備をするのか。市民センターの職員が関わらなくても、団体が主体的に事業を進めていく状態が理想的だが、なかなか難しい。職員の関わり方が重要になると思う。

[報告者]

- ①主体性についてはそれぞれの団体によって異なる。中央市民センターは事務局として関わっており、担当委員と資料のたたき台を作りながら、企画委員会の準備を行っている。

[委員]

- ①それぞれの事業はどのくらい継続しているのか。
- ②各事業はどの程度パッケージ化しているのか。

[報告者]

- ①およそ5～10年程続いている。長いもので生出市民センターの「みんなで守ろうホテルの里」事業が34回開催している。地域の人々は大変待ち望んでいたと思う。ぜひ地元の交流の場として、続けていってほしいと思う。
- ②一つのイベントとして、やり方が定着してきている段階である。

[委員]

- ①収支に記載のある「空撮動画編集」について具体的に伺いたい。
- ②イベントのパンフレットについて具体的に伺いたい。

[報告者]

- ①柳生市民センターで開催したキャンドルナイトで校庭に並べたローソクをドローンで撮影し、動画編集を行った費用である。
- ②5つのイベントすべてのチラシを制作しており、印刷等に必要な経費を計上している。

「たいはくっこくらぶ」の実績報告及び質疑応答（発表者：太白区まちづくり推進協議会）

実績報告：

区内の小学5、6年生向けに参加児童同士の交流を図りながら、区内の自然、歴史、文化等に係る体験学習を5回実施。区内20校から33名が参加し、小学校区を越えた児童同士及び事業協力団体との交流で普段と違った経験をするにより、児童の健全育成に寄与。

普段経験することが少ない体験学習や地域団体との交流を通し、太白区の魅力的な資源について知ってもらい、目的である地域理解の促進が図られた。

質疑応答：

[委員]

- ①応募があった5、6年生63名から、6年生を優先したということだが、一度参加し本事業を経験した5年生が、次年度への引継ぎやレクチャーを行うことなどを考えると、5年生にも参加してもらうという方法も効果的だと思うが、6年生を優先した理由は何かあるか。
- ②収支に関して、予算に比べ支出が小さいがどういった工夫があったのか。また具体的に費用はどういったものに支出しているのか。

[報告者]

- ①5年生の時に参加し、6年生になり再度申込み児童がいる。初めて参加する児童、特に6年生を優先して参加していただいている。
- ②コロナ渦の前までは、開催場所までの送迎にバスを使用していたが、コロナ渦以降使用していないため支出が小さくなっており、現在送迎は保護者をお願いしている。また費用の使途については、主に食材費などの消耗品に支出している。

[委員]

- ①参加できなかった児童にはどういった対応をしているのか。
- ②参加できた児童とできなかった子の格差が発生する。落選した児童への活動内容のフィードバックや、次年度以降の参加を促すような体制作りが必要になると思う。
- ③参加者アンケートの内容を伺いたい。
- ④対象が5、6年生であればもう少し考えさせるような質問でもいいのではないか。
- ⑤報告書内の課題点の欄に、「特にない」との記載があるがいかがか。

[報告者]

- ①文書で落選の通知文を送付している。
- ②検討し次年度以降の体制に反映させたい。なるべく多くの児童が参加できるように、今年度は10名多い40名の参加を見込んでいる。

③実施した5回の体験学習それぞれの満足度、楽しかったか、学びになったかなどの項目を設定。

④検討し今年度のアンケートに活かしたい。

⑤事業は円滑に進められた。課題としては、事業全体を通して、実施内容が楽しいレクリエーションという要素が多い傾向があるため、告知の時点から学びがある事業ということで告知し、実施内容にも学びの要素を盛り込みたいと考えている。

野外活動に期待をして参加される児童が多い、機会を提供するという重要な側面もある。体験学習の機会を提供することも重要である一方、それを地域づくりにつなげることも重要である。企画委員と一緒にバランスを図りながら今後進めていきたい。

[委員]

①募集する際は全5回参加する前提で募集しているのか。

②報告書の実施内容に具体的な記載がないので、実施内容がわからない。今後報告書の記載を検討したほうがいいのではないか。

[報告者]

①児童の入替えなどはなく、同じ児童に全回参加していただくこととしている。

②次回以降活動内容を記載することとする。また収支決算書についても、記載を改め、内訳を記載することとする。

[委員]

①これまで何回実施しているのか。

②体験を通じて太白区の魅力を感じていくのは、ふるさとへの愛情を育てていくことにつながると思う。令和5年度、山田市民センターではどのような歴史を学ぶことができたのか。

③過去に実施した内容はweb上で閲覧できるのか。

④企画委員9名はどういった委員構成なのか。

⑤事業目的でもある「健全育成」につながる内容にするために、企画委員との打合せ等が大事になってくると思う。また、アンケートの結果を実施内容に反映させることが事業目的につながるのではないか。

[報告者]

①平成9年から実施している。

②鹿除土手（ししよけどて：田畑を野生動物から守るために築かれた土手）などの歴史を学んだ。

③直近3年分は太白区HPに掲載している。歴史という面で見ると、以前依頼をしていた講師が不在のために実施できていない。

④元PTAの会長や、おやじの会所属の方々、他に学生の時からボランティアで参加していただいている方など、様々な方面から参加していただいている。

⑤児童が学んだ内容は、アンケートの自由記載欄に記入してもらい、年度末に文集のような様式でまとめている。今後企画委員会でも取り上げるようにしていく。

「ディスカバーたいはく」の実績報告及び質疑応答（発表者：太白区まちづくり推進協議会）

実績報告：

太白区内の自然、史跡、名所等を訪れ、区民・市民に太白区の魅力を再発見する機会を提供することを目的としている。区内探訪会1回、ミニ区内探訪会2回実施。映像制作業務では動画を2本作成し、YouTubeで公開した。名所旧跡案内板整備では令和5年11月に安全点検を行い、全32基破損等ないことを確認。

区内探訪会では数年ぶりにバスを使用して実施し、参加者からはご好評をいただいた。太白区の魅力を提供するために動画制作を行ったが、再生回数が伸びていないことが課題である。

質疑応答：

[委員]

- ①区内探訪会の秋の募集が49名で19名参加と記載があり、他に比べて多いが、何か要因はあるか。
- ②最終的には参加者が10人以上を超えているため、参加したい方が多いことがうかがえる。YouTubeとの相乗効果にも期待できるのではないか。

[報告者]

- ①数年ぶりにバスを使用したため応募が殺到した。バスの定員を考慮し20名決定した。

[委員]

- ①参加者はどういった方が参加しているのか。年齢層はいかがか。

[報告者]

- ①長年住んでいるが太白をさらに知りたいという方や、お孫さんと一緒に参加したいという方がこれまで見受けられた。募集する際に探訪エリアを公開しているため、そのエリアを知りたいという方が参加される場合が多い。年齢層は、上は80代の方、平日であれば下は50代、土日であれば中学生の参加も過去にあった。

[委員]

- ①動画制作について、視聴回数に関して費用対効果が低いという文言が出ていたが、今後は縮小する方針か。
- ②動画制作を休止するのは惜しい気がする。動画は制作者の思いが込められているため、制作に関わっていない方の意見を確認し、動画に反映することで、伝え方が変わったり、視聴回数が伸びることもある。そういった動画の検証を試みることも視聴回数を伸ばすための方法の1つとして考えられる。

[報告者]

- ①当初制作した経緯として、抽選になるほど委員との探訪が人気であるため、抽選から漏れても動画で探訪した気分になるように、コロナの影響で外出できないという方のために制作していた。予想よりも視聴回数が伸びないため今年度は一度制作の休止を検討している。

[委員]

- ①動画について初めて知ったが、委託して制作しているのか、また、費用はどの程度か。YouTubeを確認してみると動画が2本以上あるように見えるが過去にも制作しているのか。
- ②太白の歴史について、過去からのつながりを子どもたちが感じられるような取り組みだと思うので継続して制作していただきたい。

[報告者]

- ①委託し制作し費用はおよそ10万円程度。令和3年度から毎年制作している。

「たいはく若者まちづくりフォーラム」の実績報告及び質疑応答

(発表者：太白区まちづくり推進協議会)

実績報告：

若い世代のまちづくり活動への関心と地域のまちづくり活動への参加促進を高めることを目的としている。

- ①大学と地域のマッチング事業
- ②太白区・東北工業大学との共同講座

マッチング事業に関しては、地域住民とのつながりを継続し、まちあるきパスポート制作に向けて調査を進められた。また、調査活動や情報の整理や発信は学生にとって重要な学びの場となっている。

共同講座に関しては、まちづくりへの関心が「非常に高まった」という学生が2/3以上あり、学生のまちづくりへの意欲を高められた。受講者数を増やすため講座開講についての情報周知が今後の課題。

質疑応答：

[委員]

- ①定員割れという話があったが、対象の学生は限られているのか。一般教養科目とし受講できるのか。定員割れが続く場合、講座が続けられないということも考えられるのか。
- ②何曜日に開講されたか等開講方法について伺いたい。
- ③助成金がどのように使用されているかは把握しているか。把握している場合は報告書にも記載していただきたい。
- ④グループ分けの調査テーマは学生が主体的に考えているのか。
- ⑤共同講座の冊子の発行が7冊目ということだが、学生が取り組んだ活動で、課題解決につながった事例はあるか。学生目線で考えると、学生の活動は、活動して終わりという自己満足で終わってしまうことがよく見られる。行政と地域が関わりながら活動しているのであれば、公に報告するような場があればさらに充実したものになるかと思う。

[報告者]

- ①原則1、2年生を対象にしているが対象の学科を制限している訳ではない。コロナの影響でフィールドワークができなくなったことや、担当講師が留学のためにオンラインでの講座になってしまったことで受講数が減ってしまったと考えている。講座を取りやめるという話はまだない。
- ②開講は毎週水曜日の最後のコマでカリキュラムを組んで開講した。
- ③研究室から領収書等の決算資料を提出してもらっている。
- ④学生が考えたテーマを講師と相談しさらに深堀したテーマを設定している。
- ⑤生出の古民家再生などの活動は過去の活動の中で地域の課題解決につながった事例と考えている。

(2) 令和6年度太白区まちづくり活動助成事業二次募集に係る評価について

① 評価方法等説明【非公開】

- ア 評価基準・採点方法について説明
- イ 申込事業の概要説明
- ウ 留意点の説明

② 事業計画説明会（団体によるプレゼンテーション）【公開】

ア ながまち会による事業計画説明及び質疑応答

事業名：「ぐるぐるながまち」事業

事業概要：

ながまち会は、NPO 法人スロコミとまごころサポートが中心となり、長町に交流を生み出す仲間づくりの場として立ち上げた。アイデアを発表し、意見を言い合いながら、まちづくりのきっかけを作る場としてながまち会を毎週第三木曜日に開催している。

ながまち会のごみ拾いは、2023年から開始している。6月は参加者8名、9月は10名と参加人数を増加することが出来た。ごみを拾いながら街を歩くことで、街を再発見することが出来る。またごみを拾いながら地域の人とコミュニケーションが生まれる。そしてきれいな長町になっていくことで、長町に行きたくなる、長町に住みたくなることを目指す。

もっと参加人数を増やす工夫をすることが、今の課題となる。ながまち会のロゴを作り、チラシに入れたり、ビブスに入れていくようにしたい。またチラシの配布や SNS の活用で人の目に触れる機会を増やしたい。そのため SNS を学ぶセミナーも今年度の計画に取り入れた。

質疑応答：

[委員] SNS のセミナーはだれが受講する予定か。

[発表者] ながまち会の会員 5 名と、ながまち会以外の参加者 5 名の 10 名程度を見込んでいる。

[委員] 主催者が受講する研修は、助成金の対象外となる。

[発表者] 費用負担等の見直しを行いたい。

[委員] 主催者が SNS を発信するのか。

[発表者] 主催者以外でも、SNS の発信をしてもらえるようにしたい。

[委員] 協力は得られそうか。

[発表者] 意欲のある参加者が多いため、期待している

[委員] 参加する動機は、街がきれいになることだと思われるので、カプセルトイが動機に繋がるとは考え辛い。また予算計画が、1 回の参加者 80 人となっていることの根拠を説明して欲しい。

[発表者] 今までの参加者の最大人数は 21 名。何名か参加理由を聞いたところ、カプセルトイが理由となっている方もいる。参加理由はなんであれ、参加者を増やすことが今は必要であると考えている。カプセルトイは長町と縁のある中身となっているため、長町を知って貰うために良いツールであると判断して、今回の事業に入れている。

[委員] SNS のセミナーの企画料はだれに支払うものなのか。講師に支払うのか、企画者が別にいて企画者に支払うのか、講師料と別になっている点を説明して欲しい。

[発表者] セミナーの講師に依頼をしたところ、この明細での請求があった。

[委員] 参加者を 100 名としているが、2 年目、3 年目の展望を教えて欲しい。

[発表者] 長町に賑わいを作るためイベントの実施を考えていたが、1 年目はゴミ拾いの参加者を増やしていくことを目的としたい。

[委員] 今年に入り参加者が増加しているが、何か工夫したことはあるか。

[発表者] チラシの配布先に長町の町内会や長町小学校を追加した。

[委員] 100 人位集まってくるのであれば、広瀬川の灯ろう流しなどのイベント前後に合わせることで、より団体の重要性が増すのではないか。

[発表者] 最大の目的は長町に人に来てもらうことであり、ごみ拾いはそのためのツールとして捉えている。

イ 中田西部町内会連合会による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : 壁画プロジェクト

事業概要 : 中田西部町内会連合会の中に、中田まちづくり勉強会が発足した。その中の若手メンバーを集約し、壁画プロジェクトが発足した。南仙台駅 100 周年のイベントに合わせて、地域の活気を伝えることを目的としている。南仙台駅東西間の小学校と中学校の児童・生徒から原案を募集する。1 年目は南仙台駅開設当時の風景を原案としようとしている。南仙台駅東西間の交流を行いながら、まちづくりにしていこうとしている。披露式典の中で表彰式を行い、まちを変えていく第一歩にしたい。壁画披露とポケットティッシュを配り、理想の街にして

いくことを南仙台駅利用者にも発信していきたい。この壁画プロジェクトをと
おして、東西の交流と東西の格差をなくすきっかけとしたい。

質疑応答：

[委員] フェンスの管理者、持ち物は誰になるのか。

[発表者] JR の持ち物であると確認した。JR から壁画を展示するために使用することの許可を得られた。

[委員] 許可の内容として、壁画設置の期間や強風時の安全対策等を含めて、JR と相談しているのか。

[発表者] 詳しい打ち合わせはまだ行えていないが、披露式典の前後 1 か月程度の設置として相談している。その後、住民の目に触れるような設置場所に移す計画を考えている。

[委員] アンケートの実施について、12,000 部作成するとあるが、誰がどのようにアンケートを行う予定なのか。1 日で 12,000 部のアンケートを集めるのは厳しい。

[発表者] 柳生西中田エリアはイベントが多いため、イベント時に集める方法と、南仙台駅で集める方法の両方を考えている。12,000 部の根拠としては、南仙台駅の 1 日あたりの乗降調査の結果を元にしてている。

[委員] 東側と西側の温度差について、どちらが高く、どちらが低いのか。

[発表者] 西側が高い。東側も少しずつ若手の方の動きが目立ってきている。

[委員] 壁画作成の段取りについて。中学校の美術の先生 2 名はどのように関わるのか。

[発表者] 校長先生に事前に相談した際、イベントに積極的に関わるよう援助すると返事を頂けている。

[委員] 教員の働き方改革で、教員が外部の仕事をできなくなってきているので、無理のない範囲で行って欲しい。

[発表者] 校長先生と相談し、無理のない範囲での協力を頂ける見込み。

[委員] 子ども達のアイデアや創意工夫が活かされるようにして欲しい。実際の作業はどこで行う予定か。

[発表者] 西中田コミュニティセンターを数日借りて作業を行いたい。

[委員] 費用の内訳について詳細を教えて欲しい。活動保険 30,000 円、謝礼金 12,000 円とあるが、何を指しているのか。

[発表者] 謝礼金は美術の専門の方に支払うことを検討している。活動保険は壁画作成の際の補償としてイベント保険を考えている。

[委員] 披露式典の実施について、JR との費用負担割合はどのようになっているか。

[発表者] まだ JR と費用負担について正式な打ち合わせは出来ていない。ある程度は中田地区の連合町内会で賄う必要が出てくると思われる。

[委員] 会場費についてはどこを借りる分になるのか。

[発表者] まだ具体的に決まっていないが、式典の際に会場を借りる必要が出てくるため、計上している。

[委員] 2、3 年目以降の展開はどのような計画でいるのか。

[発表者] 中田まちづくり勉強会にこのプロジェクトを移管する。その中で継続を検討していきたい。

[委員] 式典で壁画を飾る場所と、その後移転させる先はどこか検討しているか。

[発表者] 式典後、南仙台駅の東西連絡通路に置き、その後公園のフェンス等に取り付けを行いたい。

ウ ございん八木山による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : ございん八木山プロジェクトによる地域課題解決・活性化事業

事業概要 : ございん八木山は一軒家の無償譲渡を受けて、地域の憩いの場として活動している。今までは仙台市の地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業の助成金を受けて、譲り受けた土地、家屋など基礎となる部分の整備を行ってきた。今年度はまちの居場所づくりを本格的に進めていきたい。みやぎ生協福祉活動助成金を使って、設備の更なる充実を図りたい。まちづくり活動助成をつかい居場所づくり策を行ってきたい。

今までは助成金だよりの面があったが、今後の資金を作り上げていくことをすすめたい。そのため有償の講座などを設けたい。

質疑応答 :

[委員] 東北工業大学と受託研究を結んでいるのか。また受託研究とした理由はあるのか。

[発表者] 契約はまだ結んでいない。東北工大では様々な地域と活動を行っている。そのため地域活性化のためのノウハウを持っている。学生が研究フィールドとして手伝ってくれることがメリット。学生と高齢者とのふれあいは、学生にとっても勉強になるため、共存関係にある。

[委員] この助成金は主要な業務を第三者に委託することはできないという規則がある。50万円のうちの38万円が受託として使用するのか、共同として使用するのか、趣旨が大きく違ってくる。

[発表者] 丸投げではなく、一緒に事業を行うようにしている。

[委員] 今回の事業については受託研究ではなく、共同研究とすることを検討して欲しい。

[発表者] 共同研究とする。

[委員] 自己資金50万円が計上されており、支出の部に建物の修繕費30万円が計上されているが、この費用は本事業と関わりのある費用なのか。

[発表者] ただもん市に関してはまちの居場所づくりのための経費になっている。建物修繕については、本事業とは関わりが無い。自己資金及び助成対象外経費を修正したい。自己資金の10%の確保はしてある。

[委員] 今後の将来性の部分で、和紙作りや箸づくりなどを共同で行うことで、助成終了後の構想などはあるのか。

[発表者] 東北工大は和紙作りや箸づくりなどは得意としているが、ございん八木山が学んで変わりに行うことは難しい。一方で包丁研ぎやスマホ教室などに関してはございん八木山での実施出来る。また有償にしていくことも考えている。

[委員] 昨年の実施した手わざ講習会などへの参加人数はどの程度なのか。

[発表者] R5は周知が不十分であった。チラシを1,000部しか作成できなかった。そのため、少ない時は1名、多い時で10名程度の参加にとどまった。今年はチラシ作成部数を増やすことで対策を取りたい。

[委員] 予算の講習会の費用は何名程度を想定した予算になっているのか。

[発表者] 講師が1~2人、学生が数名参加する。学生も一部有償で参加している場合もある。また材料費も必要となっている。

[委員] チラシの配布経費はどのような形での配布を考えているのか。

[発表者] 昨年までは担当者が直接全戸配布を行ったが、今年は業者による全戸配布を考えている。

[委員] 町内会から配るのも方法としてあるのではないか。

[発表者] 町内会から1度配布はあったが、2度目は嫌がられた経緯があったため、別の

方法で検討している。

[委員] 予算全体を見て、ITなどの工夫が無いように見える。

[発表者] 社協としての立場もあるため、社協側の事業として、ITを取り入れて福祉課題の解決をしようとしている。

[事務局] 昨年度の総会資料を確認すると令和5年度の収支計画があるが、昨年度から減額見込みとなっている。その分の手当はどのように考えているのか。

[発表者] ございん八木山立ち上げ時に多くの助成を頂いた。そのため収支上はマイナスになっているが、現金は持っている。それを取り崩してやりくりしている。今後は会費収入や有償講座を増やしていくことで、賄えると考えている。

[事務局] 今まで行ってきた講座で有料のものの収入はどのように計上しているのか。

[発表者] 今までの講座は全て無料であった。

[事務局] チラシに費用が掲載されている。

[発表者] 計画の段階では一部有料としていたが、実際は無料にした。なかなか有料では人が集まらない。

③ 採択候補事業及び助成金額案の決定（非公開）

ア 各団体の採点結果

イ 申込事業に係る評価・協議

ウ 助成金額についての協議

エ 結論

- ・留意点を確認し問題なければ、3団体全てを採択する。
- ・1団体は満額で採択し、残り2団体は助成希望額から減額した上で採択する。

4 閉会